

# 窓

—同窓会だより—

No.93 (平成24.2.29発行)

富山県立魚津高等学校同窓会



昨年末、富山を舞台にしていると聞いて、何年ぶりかで映画館に「Railways2」を観に行ってきました。私と同世代の夫婦やおばあさんと孫娘との情愛が東京訛りの富山弁で話されるストーリーは感動的でした。それに加えて、春先の加積野や黒部平野から見た北アルプスの美しい風景が、五十年ほど前の魚高生時代に「汽車通」で見えていたそのまま、当時のことがとても懐かしく思い出されました。

私の家は朝日町の

笹川地区にあり、泊駅から蒸気機関車で通学していましたので、「汽車通」と呼ばれていました。当時の私にとって魚津は「大都会」



## 「汽車通」の思い出

— Railways2を観て —

折谷 吉 治



四人掛けの座席など、様々なことが思い出されます。振り返ってみますと、私は村の小学校から町の中学校に入ると、自転車通学となり、高校では、汽車通になりました。さらにその後、車や電車、地下鉄というように、通学・通勤の乗り物を変えて、次々と新しい世界にスピードを上げながら出て行きました。それはエキサイティングでもありましたが、同時に困ったこともありました。特に困ったのは言

そんな私も還暦を過ぎ、そろそろ、自分のライフサイクルの中で「戻る・帰る・還る」という局面になってきたと感じています。スピードアップしながら新しい世界に出て行く生活に別れを告げ、汽車通の頃までスピードダウンする年代かと思いはじめております。戻る場所は、もちろん、地下鉄のように窓の外に何も見えない所ではなく、汽車通の窓から見た北アルプスの山々や、加積野・黒部平野の田園風景が見える所です。仕事の関係で、

アジヤ諸国・北米・ヨーロッパから中央アジアまで、沢山の場所を見てきましたが、私にとつては、ふるさと富山に勝るすばらしい所はありませんでした。

で、そこに毎日、汽車で通えるということは、とてもワクワクすることでした。初めて「パス」(通学定期)をもった時のうれしさは、魚高入学の喜びを象徴することとして、今でもはつきりと記憶しています。汽車の窓から見える四季折々の美しい風景だけでなく、春にはそれと分かる新入生達、夏には窓から入る風、冬には石炭を焚く臭いや、スチームが入った暖かい車内、デッキにある自動でないドア、仲良しの仲間と座る

葉でした。まず、町の中学校に入ると、町の子達から村の訛り言葉がおかしいと笑われ、高校では魚津近辺の友達から、やはり訛っていると、からかわれました。さらに、金沢・東京へと居所を移すたびに言葉では苦勞しました。極めつけはアメリカへ留学した時で、笑われるどころか、何を言っているのか通じなかったこともありました。今となっては、どれもこれも懐かしい思い出です。

仲間や兄弟がいます。田舎住まいは「男のロマン」と申しますが、その夢を実現するのは叶わぬとしても、これからもできるだけ頻繁に帰省し、懐かしい風景を眺めつつ、昔からの仲間達と話す機会を多く持ちたいものだと思っております。

(明治大学商学部教授

魚高十九回卒)

### 同窓生より地球儀の寄贈

校長 筒井慎一



校長 筒井慎一  
昨年の秋に、魚津高校第一回の卒業生である下坂孝之氏から「母校に地球儀を寄附したい」と思っています。ですが、学校としてはど

うお考えになりますか」というような丁寧な申し出がありました。もとより、差し障りなどあるはずもなく、「たいへんありがたいお話であり、本校とすれば大歓迎です」とお答えしましたので、地球儀の寄贈が瞬時に決定しました。

下坂氏は、現在は遠方に住んでおられるので、電話での遣り取りでしたが、「世界で販売されている地球儀の中で、最も大きい地球儀を寄贈したい」という思いを淡々と語られました。その瞬間、魚津高校で学ぼうとしている生徒への、下坂氏の熱い思いが伝わってきて、改めて深く感動いたしました。

そういう深い感動を噛みしめたまま、下坂氏といういろいろなお話をさせていただきました。これとを巡らせ、地球儀の活用の仕方について様々に考えていました。実際に、アメリカ製の直径1m近い大きな地球儀と、その周囲を覆う木枠の立派な台座を最初に眺めた際には、私自身が気宇壮大となり、奮い立つような思いが湧き上がってきたのを今でも覚えています。

その地球儀に託された下坂氏の思いなどを付度し、年末に全校生徒に寄贈を披露した際には、「常に世界全体を見据えながら宇宙的視点を持って欲しい

こと。他の国のそれぞれの立場やそこから見える前後左右の風景や位置関係を味わって欲しいこと。世界の国々の名前や位置を確認してほしいこと」など、学校としての思いを語りました。やがて世界に雄飛する本校の生徒にふさわしい立派な贈り物をいただき、改めて下坂氏への深い感謝の念を記し、ご紹介いたします。



### 再び母校にて

清河周悦



清河周悦  
昨年四月より母校に勤務することになりました。魚津市在住なので、学校の前を通ったり、教員なので用事があって来

校することはあったのですが、外から見るのとは違うのでは全く違うものでした。OBなので、魚津高校のこと

はよく分かっているつもりでしたが、実はよく知らなかったということが多々ありました。また、三十年の月日が経つうちに大きく変わってしまったこともあり、昔日を思い出し非常に感慨深いものがありました。

今も変わらないものとしては、講堂があります。いまだに現役で使われていることに驚嘆しました。私がいた頃の建物は、図書館と第二体育館が残っていました。校舎は全く変わってしまったが、現在の校舎の四階から富山湾がよく見えるのは、大変よいなと思います。

また、私達OBにとって思い出深い行事として校歌指導があったのですが、当時のあの野蠻(失礼)で怖い応援団員は現在全く存在せず、代わってチャアリーダーの女の子たちが優しく指導していました。まさに隔世の感がありました。また、「魚津高校のスクールカラーは『紅』である。」ということも意外でした。大きく変わった部分もあります。後輩たちの気質は、昔とそう変わっていないように思いました。

最後に恥ずかしながら正直に告白しますが、魚津高校の校訓「明るく協力 撓まぬ勉強」を全く知りませんでした。当時の学校生活の中で誰も校訓について言っていないように思うのですが、当然、「撓まぬ(たわまぬ)」も四月に初めて読めるようになりました。

魚津高校の教壇に立つのは、私が教員になってからの希望でありました。異動希望を出すときは常に第一希望に書いていましたが、願いかなわず三十年近くたってしまいました。教員生活も終盤にさしかかかっての赴任というこ

とで、やや遅かったかなという思いもあるのですが、日々感謝しながら母校での教員生活を満喫しています。また、自分の原点を見つめ直すこともできたように思います。今後は、母校のために少しでもお役に立てればという思いで一杯です。  
(魚高三千回卒)

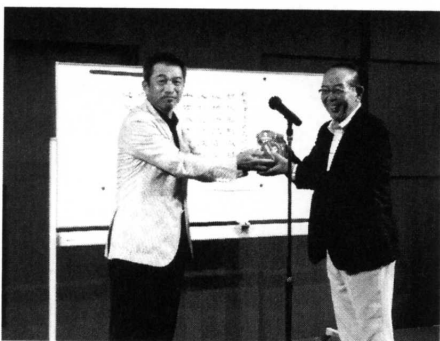
### 第十三回

### 同窓会ゴルフ大会

平成二十三年九月十八日(日)、魚津国際カントリークラブで第十三回同窓会ゴルフ大会が行われ、今年は東日本大震災のチャリティ大会として実施された。

五十九人が参加したこの大会で、五万三千元が集まり、全額を北日本新聞社に預託した。

- 〈優勝〉 大嶋 宗幸(魚高31回卒)
- 〈次勝〉 本井 博信(魚高25回卒)
- 〈三位〉 西田 浩史(魚高41回卒)
- 〈四位〉 伊東潤一郎(魚高36回卒)
- 〈五位〉 石崎 由男(魚高18回卒)



四十物直之OBゴルフ実行委員長=写真左=が千田則行同窓会長=写真右=に募金箱を渡した。

### 平成二十二年 度

## 同窓会のつどい

本校同窓会総会は、八月十三日ホテルグランミラージュにて開かれた。

「学校が変革の年でクラス数も変わった。母校に協力したい」という千田則行会長の挨拶の後、筒井慎一校長が進路別講座制が始まった学校の現状を報告した。事業についての審議の後、同窓会会則の役員に関する部分を一部改正した。

懇親会は、松岡千穂さん(四十四回卒)の司会により、幹事学年代表米田哲氏(四十二回卒)の開会の挨拶で始まった。千田会長の挨拶に続き、中尾哲雄名誉会長が、「ふるさと、とりわけ母校は浮き草のような人間の心の支えだ」と祝辞を述べ、続いて室澤基範兵庫魚高会会長の近況報告があり、澤崎義敬魚津市長の乾杯の発声で開宴、和やかな雰囲気の中で親交を深めた。

魚中、魚女、魚高の校歌を各同窓生ごととに高らかに合唱し、来年度幹事学年代表の山口正人氏(四十三回卒)が幹事引き継ぎの挨拶を述べた。加藤敏久元校長が、「魚津高校は血の温度が高く、魚高卒業生だと聞けば全面的に受け入れる。『紅はわが心』と聞いただけで、一枚岩になり一体感が持てる」と挨拶し万歳を三唱した。筒井慎一校長の返礼があり、魚津高校同窓生の連帯の絆を一層強めて会は幕を閉じた。



### 記念講演は

## 佐々木経世氏

けいせい



### 「東日本大震災復興に向けて」

総会終了後、同窓生の佐々木経世氏(イースリユーソリューションズ株式会社 代表取締役社長：魚高二十八回卒)による「東日本

大震災復興に向けて」と題した講演会が開催された。

佐々木氏は一九七六年本校卒。慶大大学院、マサチューセッツ工科大などを経て戦略コンサルティング、事業プロデュースなどを行うイースリユーソリューションズ株式会社を設立。「チーム・マイナス6%」「クール・ビズ」などの国民運動を手がけ、「東日本大震災復興構想会議」の専門委員会委員も務めている。

佐々木氏はまず、自らが関わる、環境省の「チーム・マイナス6%」、農水省の食料自給率向上に向けた「フードアクションニッポン」、新型インフルエンザ対策、脳梗塞の細胞治療、買い物弱者支援などの取り組みを紹介した。

その後、震災の復興構想会議で検討されている項目について、多くの資料をもとに説明。「日本の経済は危機的状況にあるが、従来からあった課題を踏まえ震災で加わった課題を認識し、創造的に被災地を復興させていく必要がある」と国内外のリーディング企業二十三社と進める「スマートシティプロジェクト」などを紹介した。

国家的課題を扱い、「未来の子供たちのために我々世代で問題解決をしてい

こう」と同窓生に心強いメッセージを送った。

### 「先輩に学ぶ講演会」

## 生徒にも語る

十月四日に同氏は「事業プロデューサー」という仕事：未来のために」と題して生徒対象に講演を行った。八月の総会の講演を聴いた筒井校長が「生徒にも」と即刻依頼し実現した。

佐々木氏は「いろいろなことに好奇心を持ち続けてきたことが今に生きている」とまず高校時代を振り返った。次いで、自ら手がけるいくつもの事業プロデュースをオーケストラの指揮者にならんと紹介した後、「いい大学や企業に入れば安心という時代ではない。社会を切り開く力を持つことが本当の安定につながる」と話した。

生徒からは、「本校出身の方が、自分も知っているような政策に携わっておられるとは正直驚いた。」「企業に対してコンサルティングを行うということは聞いたことがあるが、複数の企業を統括し、無駄なく物事を進めていくという発想に驚愕した。」「広い視野を持った方が日本を先導なさっているのを知り、自分の考えが全くちっぽけなものだったことを痛感した」などの感想が寄せられた。

### 近畿地区 秋の交流会

## 天王寺近辺の散策と懇親

大阪魚高会幹事長 稲崎 登



第四回近畿地区魚高会、秋の交流・懇親会が十月二十三日(日)、大阪天王寺で開催された。この催しは二年に一回、各支部の役員が幹事となって大阪↓兵庫↓奈良の輪番で行われている。今回は二巡目に入り、大阪支部の担当で開催した。

交流会は、天王寺駅に集合して二組に分かれ、付近の名所を散策した。普通組は四天王寺めぐり、健脚組は「真田幸村夏の陣ゆかりのコース」を、それぞれボランティアガイドの案内付きで回った。あいにくの雨模様の天気だったが、参加した二十一名はガイドの説明に熱心に聴き入り、大阪の街を再発見することができた。

懇親会は、天王寺駅近くの会場で行い、大阪支部十一名、兵庫支部六名、奈良支部四名が集った。

### 稲崎登大阪

支部幹事長の司会で、三井信義大阪支部副会長が開会挨拶。室澤基範兵庫支部会長、谷川拓至奈良支部会長が各支部の現況を報告し、参加者中最年長の福本元行氏(三回卒)の音頭で乾杯し、故郷魚津の思い出話などで盛り上がった。(魚高二十一回卒)



真田幸村終焉の地「安居神社」にて

# 学校便り

文化部発表会 (9/30)



科学部



茶道部



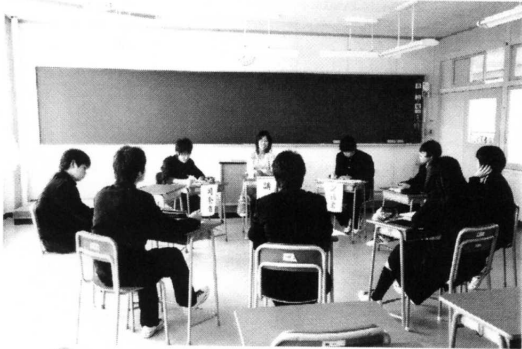
美術部



10/18 本校で学校寄席が開かれた。それに先立ち、寄席文字の春亭右乃香さんが来校。書道部に寄席文字を指導された。

## 同窓会連絡係 (平成23年度卒)

1組	島 英佑	・	室口 理紗
2組	辰 亮平	・	堀 綾乃
3組	岡田 貴大	・	角本 愛
4組	櫻井 翔太	・	廣濱詩緒里
5組	稗苗 雅寛	・	小林 愛
6組	田中 仁郭	・	栗谷 結希



1年進路探訪 (10/8)



通学路清掃 (10/20)



赤ちゃんふれあい体験 (10月・11月)

## 部活動関係(後期)主な成績

- ・第48回富山県高等学校陸上競技新人対校選手権大会  
男子やり投げ 3位 女子砲丸投げ 3位 男子八種競技 3位
- ・富山県高校新人水泳競技大会  
女子50m平泳ぎ 2位
- ・第35回全国高等学校総合文化祭放送部門 朗読部門 優秀賞
- ・第8回北信越高等学校選抜放送大会 アナウンス部門 最優秀賞
- ・第23回富山県高等学校自然科学部研究発表会 ポスター(パネル)発表の部 優秀賞
- ・第23回富山県高等学校文化祭 美術工芸部門 優秀賞
- ・第23回富山県高等学校文化祭 俳句部門 最優秀賞 短歌部門 最優秀賞
- ・第36回全国高等学校総合文化祭「残日カレンダー」制作 最優秀賞

## 原稿募集のお願い

本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか? 自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方を募集しています。

## 富山県立魚津高等学校同窓会

〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地  
TEL (0765) 22-0221  
FAX (0765) 22-9970

同窓会ホームページ

<http://www.nice-tv.jp/~gyokou/index.html>

魚津高校ホームページ

<http://www.uozu-h.tym.ed.jp/>